

## ■著者紹介

### 指宿 信 (いぶすき まこと)

1959年 京都市生まれ

1989年 北海道大学大学院博士後期課程単位取得

1991年 同法学博士。鹿児島大学教授、立命館大学法科大学院教授などを経て、2009年から成城大学法学部教授

主な著作、監修書、訳書として、『刑事手続打ち切りの研究』（日本評論社、1995年）、『インターネットで外国法』（編著、日本評論社、1998年）、『サイバースペース法』（編著、日本評論社、2000年）、『法律学のためのインターネット2000』（共著、日本評論社、2000年）、『インターネット法情報ガイド』（共編著、日本評論社、2004年）、『極刑——死刑をめぐる一法律家の思索』（共訳、岩波書店、2005年）、『リーガル・リサーチ [第3版]』（監修、日本評論社、2008年）、『リーガル・ライティング [法律論文の書き方]』（共訳、日本評論社、2009年）、『法情報サービスと図書館の役割』（編著、勉誠出版、2009年）、『無実を探せ！イノセンス・プロジェクト』（監訳、現代人文社、2009年）、『刑事手続打ち切り論の展開』（日本評論社、2010年）、『法情報学の世界』（第一法規、2010年）、『被疑者取調べと録画制度——取調べの録画が日本の刑事司法を変える』（商事法務、2010年）、『取調べの可視化へ！——新たな刑事司法の展開』（編著、日本評論社、2011年）、『えん罪原因を調査せよ』（監修、勁草書房、2012年）、『証拠開示と公正な裁判』（現代人文社、2012年）、『リーガル・リサーチ [第4版]』（監修、日本評論社、2012年）、『とらわれた二人——無実の囚人と誤った目撃証人の物語』（共訳、岩波書店、2013年）、『アメリカ捜査法』（監訳、レクシスネクシスジャパン、2014年）、『証拠開示と公正な裁判 [増補版]』（現代人文社、2014年）など